

トマト畑 から



第16号

卒業、入学、進学、進級、就職おめでとうございます

季節は梅から桜へと暖かく忙しい春がやってきました。人生の大きな節目に出会う春です。迷いや悩み、不安もありますが、希望の膨らむ春です。ともに前に進みましょう。



1年生議員の4年間を振り返って

まず、4年間、私を議会へ送っていただきありがとうございました。議会のしくみなど熟知しないまま、住民の声を届けねばと、とにかく発言することに務めました。一般質問には毎回欠かさず取り組み、頑張りました。心に残っているのは、国民健康保険料のうち、働いていない子どもや赤ちゃんからも税をとる均等割はやめるべきと訴えた質問、赤蔵ヶ池近くにある山を大幅に削ったメガソーラーの発電に対する町の対応をうかがった質問、また、今回の鳥獣害被害に対する質問も心に残っています。4年たった今も発言の仕方が上手くなったとは言いがたく、あとになって「言えば良かった。言うべきだった。」と悔やむことは多く、更に努力していきたいと思っています。

また、道路河川の補修の要求は毎日の生活のため、災害対策のためにも重要と考え、役場に掛け合ってきました。多くが実現し、住民の喜ぶ声が聞かれました。4年間の議員活動の中で、更に発言力を身につけ、みなさんの願いに応えられる議員になりたいと思っています。環境問題、農業問題、文化問題などなど、住民の声をしっかり聞き、取り組んでいきたいです。もっともっと要求や声を聞かせて下さい。



こんな声聞いたよ

- (Aさん) 四国八十八ヶ所に参拝できない人にと、近場で巡る新四国が西明神を出発点として存在する。これを巡るイベント等をもってはどうか。
- (Bさん) 柳谷地区を走っている町営バスの便増やしてほしい。
- (Cさん) うちの孫は学校に行けない時期があったが、今はたくましく都会で自立している。今、不登校の人が増えている。このことに取り組む議員さんであってほしい。
- (Dさん) サルは次々と大根を抜いて柔らかい葉だけを食べる。怒ると反対にサルが人間にキバをむく。人間が残り物を食べている。何とかならないか。
- (Eさん) 山崩れが心配だったが、防護壁の工事が進んでおりとてもありがたい。(以前大野が町に要望しました)
- (Fさん) イノシシが悪さをして補修に手を焼いている。猟期中はイノシシを捕っても補助金が出ないのはおかしい。捕ってくれない。何とかしてほしい。(一般質問で取り上げました)
- (Gさん) 近所に高齢の方が多く、少しでも力になればらと思い防災士の資格を取った。

上浮穴高校「くまたん」発表会

上高生の森林環境科の生徒の活動は目にすることが多い。先日も久万高原町農業を考えるついでに「久万大豆」の興味深い発表を聞いた。

今回は普通科の生徒による「くまたん(久万を探索する)」の発表に参加した。○空き家の活用○地産地消○過疎地域の教育など、多くの発表のどのテーマも興味深く、のびのびとした校風が伝わってきた。久万をよく調べ、課題の解決方法を探る今回の発表に、久万高原町を盛り上げる人材が育つ魅力ある学校だと感じた。

また、先生方の熱意ある指導で国立大学を始め、各種大学、専門学校等、進学でも大いに力を発揮している。生徒数減少が続けば廃校となる県の方針に抗い、上高の取り組みをもっと町民に知らせ、応援したいという思いを強くした。

3月議会、16回目の一般質問

○鳥獣害の被害から農林業を守るための今後の対策について

(問) 中山間地の農家はイノシシに悩まされてきた。狩猟免許を持っている人が自由に狩猟出来る猟期中にもかかわらずイノシシの被害に困り果てた農家さんの悲鳴のような声を多く聞く。最近の鳥獣被害の実態、とりわけ猟期中における被害の実態を伺う。

(町長) 昨年度に比べ、今年度はイノシシの被害が増加している。近年はシカの生息域が急速に拡大し、樹皮剥ぎ、苗木の食害が増えている。猟期中の被害としては地面を掘り起こす、水路への土砂流入被害、身の危険を感じるなどの相談も増加している。今現在、猟友会のありかた、各事業の補助金など検討を行なっている。

(問) 狩猟期間中でありながら、イノシシ被害を訴える農家さんが非常に多いということは捕獲が充分に行なわれていないと考える。久万高原町の基幹産業は農林業だ。鳥獣被害にどのように対応されているのか、成果が見られた対策はあるのか。

(農業戦略課長) 有害鳥獣捕獲事業により種別に補助金を支給することで捕獲意欲促進を図り、駆除につながっている。農家の方からの駆除の依頼は猟友会につないでいる。捕獲以外では電柵や鳥獣ネットを対象に町単独の補助事業を行なって被害軽減につとめている。

(問) 有害鳥獣捕獲期間は町から補助がでるが、猟期中はシカ、サル以外の補助が出ない理由は何か。

(農業戦略課長) 今までは猟期に駆除しきれなかった鳥獣を4月から6月の有害捕獲期間に駆除するという考えだった。まつ山圏域での取り決めがあり、久万独断で決めることはできない。しかし、イノシシの生息数が増加しているので、猟期に補助金を出してはという声がまつ山圏域の市町から出ている。捕獲期間の協議をおこなっていききたい。

(問) イノシシの捕獲数がダントツに多いのは繁殖力が強いからで、その分被害も多い。猟期中の捕獲補助対象にイノシシを入れるべきではないか。

(農業戦略課長) 町としてイノシシを補助の対象とすることについて検討を始めており、まつ山圏域の市、町とも検討し、補助対象となった場合の単価も検討していきたい。

(問) 猟をする人は減少している。狩猟の担い手づくりをどう考えているか。

(町長) 町として狩猟免許取得に金銭的な負担軽減のため、取得、更新、国県猟友会費、ハンター保険料の半額助成をしている。狩猟の匠の養成も猟友会や関係機関とも協議、検討したい。

(問) 有害鳥獣を捕獲だけの目的にせず、ジビエ料理など、町おこしとして町の方針に位置付ければ町の交流人口を増やすことにつながるのではないか。

(町長) 野生のものは処理が難しい。みなさんにいろいろご意見を聞きながら、提言をしっかりと受け止め、ジビエ料理がまたひとつ脚光を浴びるように努力してまいりたい。

総務・文教・厚生委員会での私の発言

(問) 久万高原町乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)は、保育所等に通っていない満3歳未満の子どもに適切な遊び、及び、生活の場を提供するものと書かれているがどこでどのような形で預かるのか。

(答) 預かる時間は月10時間、場所は保育所や家庭的保育事業等。(本町では令和8年度から本格実施)

<請願書> 久万の森自然再生協議会

(仮称)への町の加入依頼について

子どもたちに豊かな自然を残そうと活動する由良野の森、鷲野氏から出された請願書に、私を含む3人の議員が紹介議員となり、本会議において7:6で可決された。町としての協議会への参加を期待します。

おわりに 

今回の一般質問はイノシシなどによる被害をなんとかしてほしいという声を取り上げました。声を上げることの必要性を強く感じました。成果につながる回答が得られたと思います。みなさんの声をもっとお聞かせ下さい。要求が実現できるよう頑張っていきます。